

新たな東北の創造に向けた

海外との分業が大事 片瀬氏

産業に新しい価値観を 工藤氏

日本とインドの経済的な関係はこれからますます深まってくるだろう。インドに限ったことではないが、海外進出で最も難しいのは現地の調達・供給・インフラ問題、さらに宗教だ。七十七銀では営業や資金に加えて、どのような支援が可能なのだろうか。

内海 海外進出で最も大切なのは、営業や資金以上に戦略だ。これまでは親会社や納品先に追随するパターンが多かった。漠然と海外に進出するのはなく、現地で何をしたいのか、慎重で緻密な戦略を立てる中小企業が増えてきた。

当行は法務や労務、税金などさまざまな専門家のネットワークを使いながら、海外進出を目指す企業を支援してきた。これまでの実績として、納品された品物の品質は日本と変わらない。さ



片瀬 弥生氏

延べ600件以上(2011年3月)から13年3月、関連融資実績は25件(約40億円)だ。地域としては中国から東南アジアにシフトしてきた。具体的な点をいろいろと聞きながら、複数のソリューションを提案しながら進めている。

海外進出をどう考えるか、片瀬さんにかかっていると、片瀬さんには、国内の工場を維持するよりも、海外に進出するよりも、海外の企業と分業する方が大事だ。最近の注傾向は来るときは山のように来て、ないときは谷のようにない。当社も仕事が集まった時期があり、日系企業が指導している中国の企業に協力してもらった。

あり、日本は自分たちのモノづくりに誇りと自信を持っていいと思えます。工藤 当社の仕事は研究者を支える分野だ。素粒子物理学、原子核物理学などの基礎研究をやってきた研究者、測定器メーカーの技術者が顧客だった。だが20年前までは基礎研究メーカーも含めて測定器メーカーもあってきた。基礎研究を重視してきたが、深く狭く継続して続けなければならぬ研究開発に携わる企業自体が少なくなってきた。基礎研究を重視する風潮は、大手企業がグローバル化を唱え始めたころから顕著になってきたように思う。

確かに工藤さんが指摘する通り、最近の日本

は長期的な基礎研究への理解がなくなった。インドは基礎研究をどう捉えて、どう進めているのか。工藤 サンジヴ・インド人はゼロを発見しており、物理学、哲学や数学、物理、宇宙工学といった基礎研究が得意な民族だ。MGEを筆頭に欧米の大企業の巨大研究所はインドに拠点を移してきている。数々の物理学者の専門家が数多いという人材という側面、さらに知的財産に対する考え方も、インドは今も貧困問題を抱えており、インフラの整備も受け止めて、エネルギーを大量消費してきたライバルを見直すべき時期に差し掛かったのではないかと、新しい価値観と古い技術を組み合わせ、インドと同じように社会が抱える問題を解決することで新しいビジネスチャンスが広がっているように思う。

技術を世界で運用 サンジヴ氏

確かに戦後日本はアメリカの大量消費社会にあってきたが、ここに来て人口減少に直面している。人口が減少する日本と、逆に増加するインドが手を携えることで新しい可能性が生まれてくるのではないかと、サンジヴ 指摘の通り、インドと日本が協力することでさらなるモノづくりに発展するだろう。

う。日本の弱点はグローバル・マーケティングだ。日本の携帯電話は十数年前は世界最先端だったが、アップルやサムスンにマーケティングで負けて競争力を失った。基地の人口の多さ、若さ、残らなければならぬ。この10年で東北地方の金型メーカーの3、4割が淘汰されてきた。現場を担う人材の強さが企業の強さにつながっている。やる気のあふれる人材を振り起こして育てていきたい。海外の需要を上手に取り込みながら、国内でモノづくりを続ける体制を作りたい。

グローバル競争が激化する中で、これまで企業が大切にしていた社内教育が、おろそかになってきた。こうした時代だからこそ、人材育成が重要になってきた。こうした時代だからこそ、人材育成が重要になってきた。こうした時代だからこそ、人材育成が重要になってきた。



工藤 治夫氏

「東北モノづくり企業を取り巻く」と題して、東北金型工業会・内外情勢調査会副会長、東北地区企業人クラブ専務理事の工藤治夫氏が講演した。

「パネリスト」
七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室 室長 内海 敏宏氏
明治合成社長 片瀬 弥生氏
工藤電機社長 工藤 治夫氏
サンアンドサンズグループ代表 サンジヴ・スィンハ氏
〈コーディネーター〉
日刊工業新聞社論説委員 八木澤 徹



「東北モノづくり企業を取り巻く」と題して、東北金型工業会・内外情勢調査会副会長、東北地区企業人クラブ専務理事の工藤治夫氏が講演した。

地域のモノづくりを応援する一機械工具・環境機器の総合商社

有限会社 福島研磨材商会

代表取締役 渡辺 三雄

本社 福島市三河町10-12 TEL 024-534-5121
郡山 郡山市安積2丁目182 TEL 024-945-4831
相馬 相馬市沖ノ内1丁目12-7 TEL 0244-36-1782

プレス加工、金型加工、精密加工など、さまざまな分野で活躍する企業が揃っています。

新規会員募集中

東北金型工業会
TOHOKU-KANAGATA.ORG

入会のお問い合わせは
事務局(株)庄司製作所内
〒989-1611 宮城県柴田郡柴田町大字上名生字明神堂72-2
TEL:0224-55-4381 FAX:0224-55-4382

LED照明で環境・省エネをお手伝いし
CO2削減で社会貢献をご提供いたします

K.E.C. 梶原電気株式会社

代表取締役 梶原 功

〒984-0014 宮城県仙台市若林区六丁の目元町13-16 (仙台工業団地内)
TEL (022) 288-9210 FAX (022) 288-9232
http://www.k-e-c.co.jp E-mail:kajiwara@k-e-c.co.jp

わが技が奏でる調べに敏感。

東栄科学産業株式会社

TEL.022-743-3221(代) FAX.022-743-3235
http://www.toei-tc.co.jp/top.html

加速器科学で培われた
高精度電源機器

工藤電機株式会社

SPシリーズ(スイッチング方式) 高安定直流電源

出力:電圧 8V~600V/電流 10A~500A
可変範囲:電圧:電流は0~可変可能
安定度:CV/CC 0.05%/hr(10ppmも可能)
※外部信号により出力電圧と電流設定可能
※並列・直列接続により出力容量の拡張可能
各種の試験研究や生産設備に最適です。

本社 〒982-0034 仙台市太白区高多賀3-1-5 TEL:022-245-2141 Fax:022-245-2485
名取事業所 〒981-1225 宮城県名取市藤野坂3-1-38 TEL:022-382-3155 Fax:022-382-3124
http://www.kudo-denki.co.jp/

時代のニーズに即応した
岩機の製品

アルミ・亜鉛
ダイカスト製品
鉄・ステンレス・チタン
モルダロイ製品(MIM)

岩機ダイカスト工業株式会社

〒989-2204 宮城県亶理郡山元町鷲足字山崎51の2
Eメール info@iwakidc.co.jp
TEL (0223) 37-3322(代) FAX (0223) 37-3720
ホームページ http://www.iwakidc.co.jp/

第4回ものづくり日本大賞「経済産業大臣賞」受賞

ウスカが永久に発生しない「ゼロウスカS」

2006年優秀発明特許「中小企業庁長官奨励賞」受賞

完全クロムフリー防錆処理「ゼロクロムS」

ラックめっき・・・電機、OA、医療、環境、測定機、精密機器メーカー等約90社が現在量産中!!

「ゼロクロムS」は現行有色クロメート、「ゼロクロムSB」は現行黒色クロメートに近い色調です。
「ゼロクロムS」、「ゼロウスカS」に関する商談、見積り、試作等については何なりとお問い合わせ下さい。

銀ラインをスタートいたしました

表面処理技術: 亜鉛めっき、ニッケルめっき、無電解ニッケル、錫めっき、銀めっき、アルミ化成処理

人と環境に優しいサステナブルなめっきを常に追求する

SAMBIX
株式会社 サンビックス

〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字長沼13番地
TEL 024-933-5755 FAX 024-934-1164, 024-922-8175
URL: http://www.sambix.co.jp E-mail: info@sambix.co.jp

ISO 9001 認証取得 OHSAS 18001 認証取得 **Akushima** ISO 14001 認証取得

甲板機械とグラブバケットの
株式会社 福島製作所

◆船用甲板機械
◆海底油田開発用アンカーハンドリングウインチ
◆グラブバケット ◆鋳造品・機械加工

代表取締役社長 藤原 英男
〒960-8054 福島県福島市三河北町9番80号 TEL. 024(534)3146・FAX. 024(533)8318
URL http://www.fukusei.co.jp